

2月のGlobal Sessionのお知らせ（2026）

期日：2026年2月22日（日）10：30～12：00

場所：ギャラリー3階 会議室

ゲスト：曹英さん（中国出身・日本在住）

コーディネーター：亀田博さん（大津市在住）

タイトル：「なぜ日本は「真面目に改善してきたのに」停滞しているのか
— 改善の限界と、次の器の話 —」

参加費：600円 定員：10名ほど

【はじめに】

今日は日本を批判しに来たわけでも、誰かを説得しに来たわけでもありません。
私自身が日本の現場で働きながら考え続けてきた疑問、
「なぜ、みんな真面目なのに楽にならないのか」
その途中経過を共有したいと思います。

【日本は努力不足なのか】

日本は変化が遅い、挑戦しない、と言われます。しかし、現場を見ると、改善はしている、
管理も厳密です。むしろ日本は改善しすぎているのではないのでしょうか。

【改善の限界】

金を99.9%まで精錬しても金です。99.9999%にしても本質は変わりません。
努力は増えますが、未来が生まれるとは限りません。

【現場で起きていること】

Excelは便利な道具です。しかし何でもExcelでやろうとすると、本来判断しなくていい人
に判断を押し付けてしまいます。問題は人ではなく、構造です。

【構造的停滞】

改善が進むと余白がなくなります。失敗できない、試せない、判断を避ける。
動いているのに進んでいない状態が生まれます。

【設計の話】

失敗を責めたいのではありません。誰が悪いかではなく、なぜ再発する構造なのか。
真因を人にすると改善は止まり、構造に戻すと進めます。

【次の器】

改善をやめろという話ではありません。改善の限界を見越して、次の器を設計する。
人に無理をさせない構造が必要です。

【結び】

正解を押し付けたいわけではありません。誰も壊れない構造を作りたい。
そのための議論が、ここから始まれば幸いです。